

会 議 記 録				
会議の名称	決算特別委員会 (全体会)			会議場所 全員協議会室
				担当職員 鈴木 智
日時	令和2年9月16日(水曜日)		開 議 午前 10 時 00 分	
			閉 議 午前 10 時 21 分	
出席委員	奥野委員長、並河副委員長(環境厚生分科会委員長)、山本総務文教分科会委員長、 菱田産業建設分科会委員長 ほか委員18人 〔齊藤議長、福井議員〕			
執行機関出席者	桂川市長、石野副市長、神先教育長、玉井病院事業管理者、 山内市長公室長、浦企画管理部長、石田総務部長、吉田会計管理室長(会計管理 者)			
事務局出席者	山内事務局長、井上次長、鈴木議事調査係長、佐藤主任、小野主任			
傍聴	可	市民1名	報道関係者1名	—

## 会 議 の 概 要

1 0 : 0 0

### 1 開 議

〔奥野委員長 開議 (あいさつ)〕

〔事務局長 説明〕

〔議事調査係長 説明〕

### 2 決算審査

〔市長等 入室〕

1 0 : 0 9

#### <市長>

令和元年度予算は、「選ばれるまち」「住み続けたいまち」亀岡、亀岡新時代の実現を目指し、2020年をターゲットイヤーとするための重要な1年として、様々な施策に積極果敢に取り組み、市政運営に当たってきた。今年1月には、新たなまちづくりの核である京都スタジアムの竣工、大河ドラマ館のオープン、亀岡駅北土地地区画整理事業が進み、にぎわい創出の経済効果を期待したところである。また、小中学校や亀岡運動公園体育館にエアコンを整備し、教育環境等の充実に努めてきた。しかし、年度末の2月頃から、新型コロナウイルス感染症が拡大し、状況が大きく変わってきた。この中において、小中学校にエアコンを整備したことは有効であった。ふるさと納税については、顕著に倍増し確保できたところであり、財政調整基金の取崩しを抑えることができた。限られた財源を最大限、効果的・効率的に活用することを基本に予算執行に努めた。その結果、予算執行はおおむね順調に推移し、市税収入は平成29年度から3年連続で100億円を確保することができた。一般会計における実質収支についても、市制施行以来の黒字決算を継続

することができた。一方で、実質単年度収支は、平成23年度以来8年ぶりに黒字を計上した。また、各特別会計、水道事業会計、下水道事業会計、病院事業会計については、それぞれ黒字決算で純利益を計上することができた。特に、病院事業会計については、市立病院新改革プランを基に、医療サービス向上や経営の健全化・効率化を図ってきた結果、昨年度に引き続き2年連続で黒字となり、1億8,700万円余りの純利益を計上することができた。新型コロナウイルス感染症が、いまだ収束の兆しが見えない中であるが、引き続き安定した持続可能な病院運営に努めていく。これら決算については、将来の財政計画や各種まちづくり計画の推進における基礎的データとなるところでもあり、分析・評価を怠ることなく、有効に活用していく。連日の審査にて御苦勞をおかけするが、なにとぞ認定を賜るようお願い申し上げます。

10 : 13

[会計管理者 決算状況の概要説明]

10 : 19

### 3 その他

<奥野委員長>

各分科会は、10時30分からとする。

散会 10 : 21